

令和3年度 八鹿高等学校学校評価のまとめ

評価項目	目標 (具体的成果、評価の主材料)	評価 (4段階)	成果・課題・次年度への改善策	学校関係者評価
学校経営	教育内容の魅力化、広報活動や地域との連携強化を図り入学したい学校とする (定員確保、新型コロナウイルス感染症への対応、BYODの推進)	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動など本校の魅力や活動を外部へアピールできつつあるが、八高だよりの正門前や裏門前での掲示や、オープンハイスクールの充実など、さらに推進する必要がある。 ・ 駅からの自転車通学の実現は中学生に好印象である。 ・ BYODの導入・活用について、実践事例など職員研修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅からの自転車通学など八高の改革が地域に伝わっている。 ・ 効果的なBYODの取組を期待する。
学習指導	主体的・対話的でより深い学び、探究的な学びを全教科で推進する (「高大接続改革推進事業」「総合的な探究の時間」「八高学びの祭典」の充実)	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高大接続改革推進事業の成果が現れ始めている。研究発表(学びの祭典)に向け探究的な学びをさらに推進すべきである。 ・ 大学など外部講師の活用は、生徒の探究心やモチベーションをアップさせるには有効だが、基礎学力の低下を招かないように計画的に推進する必要がある。 ・ 総合的な探究の時間の中身の再検討、教科横断型の研究推進、探究活動の2～5Hへの拡大が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の探究心やモチベーションをアップすることも基礎学力の低下を招かないことも重要である。 ・ 高大接続の取組を全生徒に広めて欲しい
生徒指導	規律ある学校生活を徹底し、特別活動・部活動への意欲を向上させる (指導方針の共通理解と周知、ルールやマナーの遵守、いじめ問題への対応)	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規律ある生徒が多数を占めているが、指導の統一が不十分で、教員間で基準の共通理解が必要である。 ・ 全国大会や近畿大会への出場など部活動が活発だが、練習時間の遵守という点では課題がある。 ・ 顧問の掛け持ちを改善すべきである。 ・ 市内の中学校と合同練習等をしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よく挨拶をしてくれて気持ちが良い。 ・ 指導の統一は不可欠である。 ・ 中学校との合同練習は進めて欲しい。
進路指導	進路指導体制を一層強化し、生徒の進路実現を効果的にサポートする (国公立大学合格者数増加、難関大学合格者数増加、新大学入試制度への対応)	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導部と学年の連携がうまくいっているが、他の部署には見づらい。 ・ 国公立大学への進学を基本とした進路指導が行えているが、後期日程まで粘れるような指導力が求められる。 ・ 模試の分析において、他校とのデータ比較が刺激となった。 ・ 学力の下位層が増加しており、てこ入れが必要である。 ・ 早期の意識づけにLHRや大学見学の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路実績が増えていることは喜ばしい。 ・ 幅広い学力層の生徒に対応した進路指導をお願いしたい。 ・ 生徒指導と進路指導は車の両輪である。

